

人口と世帯	人口	404,550人	人口
	男	200,230人	人口
	女	204,320人	人口
	(前月より)	393人増	
世帯	165,571世帯		
	(前月より)	248世帯減	
	(16年9月1日現在)		

すでに本紙でお知らせした高齢者・障がい者・乳幼児連れの方等の外出支援を図るホームページ町田市バリアフリーマップ(市の補助事業でNPO団体が運営)の冊子版「みんなのおでかけマップ」が完成しました。車いす利用者を始めみんなが利用できるトイレ、乳幼児のための授乳室(ベビー休憩室)のある302施設を掲載しています。また、人工肛門・人工膀胱を所有されている人たちが利用できるオストメイト対応型トイレ情報も掲載しています。さらに、介護・福祉タクシー、移送サ



ービス情報を掲載しています。詳細はホームページをご覧ください。みんなのおでかけマップは市役所本庁舎の福祉総務課等で無料配布しています。
問 福祉総務課 ☎724・2113
3、FAX724・1187、ホームページアドレス <http://www.barrierfree-machida.com>

みんなのおでかけマップができました

みんなのトイレ、授乳室や介護、福祉タクシー、移送サービス情報を掲載

10月3日(日)



「にみゼロ元年」ごみ減量 一人ひとりが意識して!

町田ごみフェスタ2004

日頃からごみの減量やリサイクル活動に取り組んでいる市民、団体等が実行委員会を組織し、今年も「町田ごみフェスタ2004」を開催します。
直接会場へおいで下さい。
時間 午前10時～3時
出展(店) 開始は10時15分からとなります。
会場 町田リサイクル文化センター
ペットの入場はできません。
ごみ減量のため、模擬店利用の方は食器、はし、コップ等をお持ち下さい。また、飲食物のお持ち帰りはできません。
交通 町田バスセンター11番乗り場から市立室内プール経由野津田車庫行きで「市立室内プール」下車。臨時便(有料)も運行します。または、3番乗り場から小山田桜台行きで「桜美林学園」下車、徒歩7分。
主なイベント
おもちゃ病院：修理は無料(先着50人)部品代は実費、重傷の場合はお預かりします。
施設見学会：焼却工場などの見

学会(先着順)、煙突登りもあります。
鶴見川源流ツアー：午前11時、午後0時30分、2時出発(先着順)
長傘の修繕実演・講習：長傘をお持ち下さい。修理法(骨継部)をお教えし、自分で修理します。
その他：ソーラーカーの展示、フリーマーケット、リサイクル商品・自転車販売、模擬店、草花の販売など
ステージ
チアリーディング(桜美林大学)お雛子(上根神社囃子連)など
ごみ減量課 ☎797・0530

このため、市では8月27日、東京都とともに米海軍厚木基地航空施設を訪ね、同施設司令官あてに、市民の平穏な生活が確保できるように「厚木飛行場周辺における

米空母艦載機が厚木基地に飛来

町田に静かな空を返せ

9月7日に横須賀港へ米空母キティホークが入港し、艦載機が厚木基地に飛来しました。通常、空母が入港してから約2週間後に、これらの艦載機による飛行訓練が再開されてきたことから、今後、激しい騒音被害の発生が予想されます。
この飛行訓練は空母出港まで続けられますが、訓練内容・スケジュール等の情報は公開されておりません。
また、空母出港時期についても軍事上の理由により一定していません。
9月下旬には、新機種が配備されたこともあり、今後、市民への被害が拡大しないか騒音状況を注視していきます。
米軍に航空機騒音の防止及び安全対策等の推進を要請

航空機騒音防止及び安全対策等の推進に関する要請を行いました。要請内容は、夜間・早朝・土日・祝日などの飛行を中止することや低空飛行を行わないこと等の騒音防止対策の推進、安全確保の徹底や操縦士への安全教育等の実施、訓練並びに飛行に関する情報の提供等です。
さらに9月下旬に配備される新機種による騒音増大が懸念されるため、騒音の総量を減少させる具体的な措置を早急にとるよう要請しました。要請の詳細内容は、町田市ホームページをご覧ください。
加えて、米空母が横須賀港に入港中の6、7月の激しい騒音に対して、市内広域からたくさんの苦情が寄せられており、その内容も厳しいものが多く、住民感情が悪化していると思われる現状を伝えました。
町田市では、機会があることに、米軍及び日本政府に対して要請を行っているところですが、今後とも引き続き、東京都、神奈川県や基地周辺各市とともに、航空機騒音の防止対策等について粘り強く要請していきます。

ベビー休憩室がオープン

市では、子育て支援対策の一環として、10月1日から本庁舎1階にベビー休憩室をオープンします。
室内にはおむつ交換台・ベビーベッド、調乳用のお湯の出る流し台などのほか、母乳の方専用の授乳スペースを設けてあります。お子さんをお連れの皆さん、どうぞご利用下さい。

ベビー休憩室	おむつ交換台	2台
	ベビーベッド	1台
休憩室	休憩用ベンチ	1台
	調乳用流し台	1台
洗面器	授乳用いす	2台
	授乳コーナー	1台

問 管財課 ☎724・2165

市長随筆

町田市長 寺田 和雄 その15

このところ、紀伊半島沖で相次ぐ地震の発生があり、また浅間山の噴火があるなど、大きな地震発生の前兆ではないかと心配する声も聞かれます。政府の地震調査委員会は、「懸念される東南海地震に与える直接的な影響はない」と云っているが、関東大震災(大正十二年九月一日)から八十年以上も経っており、油断は禁物である。
それにしても、関東大震災の被災状況については、東京、横浜市内など、都市部においては相当の出版物があり、その惨状はそれなりに伝えられている。ところが、東京府下や神奈川県下など、郊外部の状況はもつとよく伝えられていない。町田市もまた同じである。
当時の町田市(一町四村)の人口は約二万四千人、地震被害は住宅、倉庫等全壊一三三九棟、半壊二三三〇棟、死者一六人(詳しくは市史参照のこと)となっている。
大正の頃の町田の中心部(原町田)は、町田街道沿いの細長い宿場町で、周辺四村はほとんど農村であった。地震の発生とともに、原町田の目抜き通り

関東大震災と町田

以前、高ヶ坂に住む鈴木さんという体験者のお話を聞いたが、「高ヶ坂あたりではほとんどの家が潰れた。私の家は建てたばかりだったので倒れずに済んだが」とのこと。概して、鶴見川、恩田川沿いの平野部に被害が多く、下小山田など源流部では少なかつたようである。同じ多摩地域でも、震源地(相模湾)に近い南多摩郡に被害が集中し、北多摩、西多摩郡方面はあまり被害を出さなかった。町田市は今や四〇万都市、当時の山林農地の相当部分は宅地化されている。くれぐれも要注意、用心こそ大事である。

商店は倒壊が続出し、その数六〇戸余を数え、二階建ての家は下が潰れ、二階から出入りする有様だったという。
道路、橋梁の被害も甚大で、横浜線原町田駅々舎、瀬谷、町田銀行などコンクリートの建物も全壊、相原尋常小学校半壊、特に横浜線原町田、長津田間のうち、成瀬、高ヶ坂方面の斜面地が線路ごと崩壊、約一ヶ月間不通となった。また、町田街道の南橋(二下写真)も落ち、久留米連隊の工兵たちがこれを復旧した(義沢千代子氏)ことが記録されている。
東京下町の被害は、地震とともに

町田地域のほとんどは多摩丘陵地域のため、相模原や武蔵野台地より危険度は高いと考えるべきだと思う。
東京都は「地域防災計画」の基礎となる「東京に於ける直下地震の被害想定」の中で、区部直下、埼玉県境直下、多摩直下、神奈川県境直下の四つの震源パターンをモデルにしてどれだけの被害が発生するかを想定している。その四つのモデルの中では、神奈川県境を震源地とするものが、当然のことながら、東京都では町田市がもっとも危険性が高いと設定されている。

